

## 第3学年 総合的な学習の時間（ヒューマン・セミナー）学習指導案

日 時 令和6年5月31日（金）公開授業Ⅱ  
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
 3年生 135名  
 会 場 ①1D ②1A3A  
 ③集会室 ④2B  
 ⑤第1理科室 ⑥第2理科室  
 授業者 佐々木 聡 也

### 1 単元名 地域課題解決プロジェクト「ちいプロ」

### 2 単元について

#### （1）生徒観

#### ①第1学年の学び

1年次は『地域と関わる』とはどのようなことか～盛岡を知ることから始めよう～』を共通学習課題とし、盛岡を学習フィールドとし「地域を知る」学習を展開してきた。実地調査や調べ学習で得られたファクト（事実）をもとに盛岡の地域課題を12のラベルでまとめ「盛岡版SDGs」を作成（図1）、地域課題の解決に尽力されている講師の方からの講演会や訪問学習を通して、盛岡の魅力や課題、そこに立ち向かう人の生き方について考えた。

#### ②第2学年の学び

2年次は『地域と関わる』とはどのようなことか～岩手に視野を広げよう～』を共通学習課題とし、学習フィールドを盛岡から岩手、岩手近郊（表1）へと広げ、主に第一次産業に関わる学習を通して地域課題解決に関わる講師の方々と共に活動しながら学びを深めた。また、学習先で知った講師の思いや、体験学習で得られた実感をもとに、盛岡市内で学びをアウトプットする活動（チラシや動画を用いた情報の発信、商品の販売、環境整備活動等）を企画し実施した。自身（生産者）の行動によって他者（消費者）の思考や行動を変化させることの難しさと、それを実現させた時の喜びの両方を肌で感じ、校外学習でお世話になった講師の方々の思いを肌で感じながら学ぶ機会となった。

#### ③第3学年の学び

1・2年次の学びを通して、生徒達はヒューマン・セミナー（以降、HSと表記）の探究のサイクル（図2）の中でも特に、データをもとに地域課題を見いだす力（①対象認知・資料学習）、それらの地域課題と向き合う講師から学ぶ力（③取材など調査学習）、講演会や交流会を通して学びを深める力（④交流・討論による学びの共有・深化）を伸ばさせてきた。一方、図3に示すように、地域課題を自分事として捉えたり、自分の好きなことや得意なことを生かしてその課題に向き合おうという姿勢に成長の余地があることを示した。図2に当てはめると、②学習課題・仮説を立てる（⑤発展課題の設定）等、生徒が主体的に探究していく原動力となる部分である。3年次のメイン活動となる6月の学習旅行や10月実施予定の地域課題解決プロジェクト「ちいプロ」においては、これまで大切にしてきたファクトをベースに物事を捉える力を生かしつつ、自分達の「好き」や「特性」を生かして、今だからこそできる地域との関わり方を思考・実践させ、共通学習課題である『「地域と共に生きる」』とはどのようなことか～私と地域のWell-being～』に迫っていきたい。

|       |          |           |            |
|-------|----------|-----------|------------|
| 伝統・文化 | 農林水産業・工業 | 商業・観光     | ユニバーサルデザイン |
| 環境・自然 | 道路・交通    | 地域資源・魅力   | 防災・復興      |
| 健康・医療 | 子育て・教育   | 少子高齢化・過疎化 | スポーツ・芸能    |

図1 附中生が考える「盛岡版SDGs」

表1 校外学習の訪問先

| 組 | 訪問先                                |
|---|------------------------------------|
| A | 花巻市【株式会社耕野】<br>北上市【西部開発農産】         |
| B | 岩泉町【有龍泉洞黒豚ファーム】<br>田野畑村【田野畑山地酪農牛乳】 |
| C | 軽米町【尾田川農園】<br>山形町【有限会社谷地林業】        |
| D | 唐桑町【森は海の恋人】<br>三陸町【中野えびす丸】         |

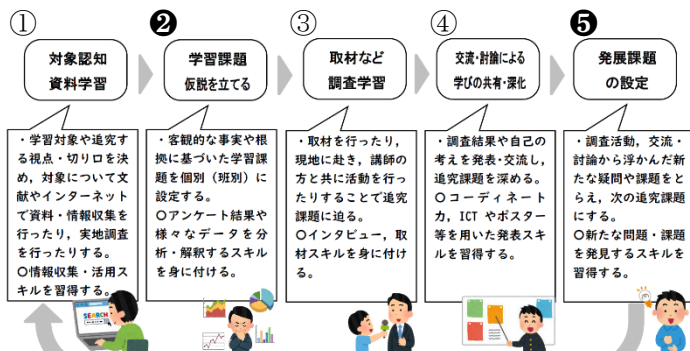


図2 HSの探究のサイクルと身に付けたいスキル

#### 令和5年度 HS パネルディスカッション

講師：水野哲志氏（(株)岩手ビッグブルズ代表取締役社長）  
 渡邊雄介氏（テレビ岩手アナウンサー）

学役長「お礼の言葉」より抜粋

（前略）我々はどうしても、授業の一環としてこれらの問題に関わっているということもあって、岩手を商業や観光の視点など、少し難しい、正直に言うと興味・関心が薄いところから考えていることが多いです。（中略）お二方に共通して、これらの問題に“自分の好きなこと”で関わられていると感じ、“好きなこと”はやはり凄いと感じました。（後略）

図3 学役長「お礼の言葉」

## (2) 教材観

### ①プロジェクト構想とHSの変遷、3年間の学習の流れ

学校教育目標「よく考え、誠をもって働く人間」の具現化を目指した教育活動の展開の理論構想を示すものが「プロジェクト構想」である。昭和43年以来「学習と生活の一体化」という実践スローガンを掲げ、より主体的・創造的な生徒の育成を目指して研究実践を積み重ねてきた。その基本的な学びの構想（展開）を端的に表したものが、1年次での「自分自身を見つめる」、2年次での「他者から学ぶ」、3年次での「生き方を考える」というプロジェクトテーマであり、今なお本校の学びの根底をなしている（図4）。改訂された学習指導要領の移行期間初年度である平成12年度、総合的な学習の時間の実施に伴い、プロジェクト構想に関わる実質的な理念を本校のHSに置きながら、道徳や特別活動の内容の見直しを図ってきた。時代と共に、各学年における講演会、訪問学習、学習旅行の内容は変化しているが、学びの構想（展開）や、根底にある「理想を追求し、困難を克服し、揺るぎない信念をもっている方の“生き方”から学ぶ」という考え方は、プロジェクト構想やHSの発足当時から一貫している。令和元年度からは「地域」を視点に探究的な学習を行い、「生き方」を個人レベル（自己創造）と社会レベル（社会創造）の両面から捉え、学びを進めている。

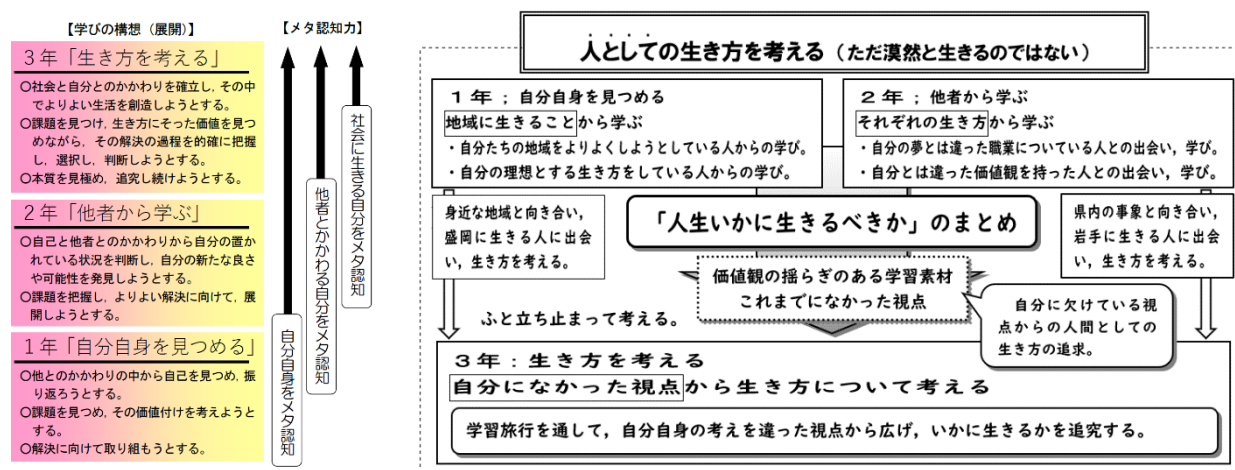


図4 プロジェクト構想における学びの構想（展開）（左）と、それをもとにしたHSの学習展開（右）

### ②学習旅行、地域課題解決プロジェクト「ちいプロ」から学ばせたいこと

今年度の学習旅行は長野県を訪れ、「関係人口」の提唱者である指出一正氏（『ソトコト』編集長）の講演「関係人口と Well-being」を聴き、地方創生に取り組む人々や企業、団体から話を伺うことで、第3学年HS共通学習課題『地域と共に生きる』とはどのようなことか～私と地域の Well-being～に迫る。この学習旅行は、生徒にとって大きな学びの場となるが、3年間のHSのゴールではなく、学びを岩手・盛岡に戻ってからの地域課題解決プロジェクト「ちいプロ」に生かすことを目指す。「ちいプロ」は、自身の「好き」と地域課題を結び付け、「自己実現」と「より良い社会の創造」を両立させるプロジェクトである。机上の空論の提案ではなく、前項に示した1・2年次の学びや、アウトプット活動（図5）の経験を生かし、実際に地域社会に出て活動し、その効果や成果を評価するところまで行う。現在、第3学年135名が25のグループに分かれ、プロジェクトデザイン（図6）を作成しながら、プロジェクト実施に向けた準備を進めている。この学習活動を通じて、各教科で培った見方・考え方を探究的な学習に応用する力、グループで協働しながら課題解決に取り組む力、実社会から課題を見出し主体的に社会に参画する態度を養うことを目指す。更に、自分が将来どのように地域と関わりながら生きていくか、また、学校教育目標「よく考え、誠をもって働く人間」に近づくためにどうすればよいかを考える契機とする。



図5 2年生でのアウトプット活動

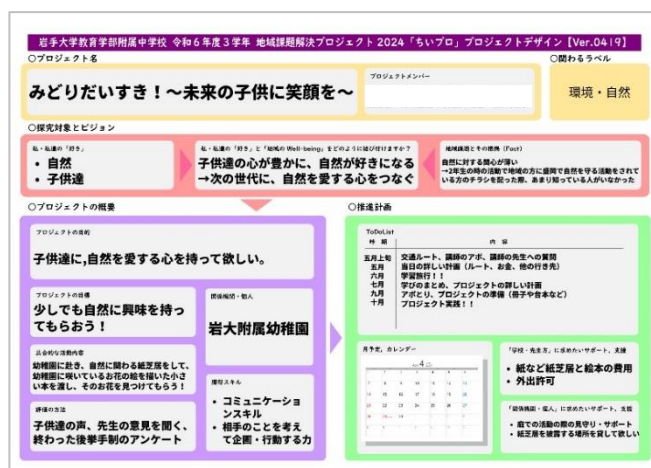


図6 「ちいプロ」プロジェクトデザイン

### （３）教科研究との関わり

#### 研究の視点① 個別最適な学びと協働的な学び

生徒一人一人が実社会の中から地域課題や注力したいテーマを見いだし、その課題やテーマに対して自己の興味・関心や特性を生かして向き合い、それらの解決に向け学校内外の様々な他者と関わりながら、自己の生き方を問い続けるという本校のHSは、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、社会に開かれた教育課程を実現する上で、重要な役割を果たしていると考えます。

本単元においても、自身の興味・関心や特性に応じ、課題設定や解決方法、成果発表の方法等を選択できるという個別最適な学びと、学校内（級友、先輩・後輩、教員）、学校外（講師、地域住民、他校生徒）の他者と多様な協働を行うことができる場の双方を意図的に設定している。個別最適な学びと協働的な学びを往還させ、一体的に充実を図りながら、生徒一人ひとりに「自己の生き方」を考えさせたい。

#### 研究の視点② 教科等横断的資質・能力の育成

実社会・実生活における問題は、複雑化・多様化しており、特定の見方・考え方で事象を捉え解決に向かうことは困難である。扱う事象や解決しようとする方向性、また生徒の特性などに応じて、それぞれの生徒が目的に合わせて意識的に各教科等における見方・考え方を働かせたり、資質・能力を活用できるようになることを目指す。加えて、総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせることで、特定の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉え、探究することを通して「自己の生き方」を問い続けられる生徒の育成を目指す。



図7 ロゴデザイン

（美術の時間に生徒が作成）

本単元においては、社会科（現代社会）の見方・考え方「課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関係付けること」、理科の見方・考え方「質的・量的な関係」、「比較したり、関係付けたりする」、国語科の（言葉による）見方・考え方「言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること」、美術科における造形的な見方・考え方「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」、道徳科における見方・考え方「自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え」などの複数の教科や領域の見方・考え方と関連させ、教科横断的な指導を図りたい。

#### 研究の視点③ 小中連携を意識したカリキュラム・マネジメント

小中連携においては、①資質能力、②表現スキル、③地域学習の三点を連携の柱としてカリキュラム・マネジメントを行っている。②表現スキルについて、小学校では「発表する」、「発表を聴く」、「質問を出す」、「質問に答える」などの表現スキル（Closed Skills）を身に付けている。中学校ではこれらをもとにしながら、より相手を意識した「議論する」、「議論をコーディネートする」といった表現スキル（Open Skills）を育成することを目指す。本単元では、双方のスキルを習得、活用する場面がある。単なる発表会と感想の伝え合いに終始しないように、その時間における獲得スキルを明示したり、生徒自身がそれらを習得、活用できているかをメタ認知させたりして、育成を図りたい。

③地域学習について、附属小学校第6学年での「卒業研究」を想起させながら、より各教科で培った見方・考え方を働かせて、探究的な学習の質的向上を図り、グループで他者と協力しながらその課題の解決に向けた取り組みを立案・実行させたい。最終的には「地域を知る」に留まらず「地域で活動を興す」ことを通して、社会参画を視野に入れた「自己の生き方」を考える契機としたい。

### 3 単元計画

#### （１）単元の日標

岩手県に関する様々な調査活動を通して、その地域の魅力や課題等の特徴を捉えると共に、課題解決の方法と自身の「好き」を関連させ、地域課題解決プロジェクトの計画を立てることができる。また、仲間と協働的に活動し、自己実現とより良い社会の実現に向けた実践を行い、自己の生き方に生かそうとすることができる。

#### （２）評価規準

| 知識・技能                                                                                                | 思考・判断・表現                                                                                                        | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 調査活動を通して、地域には様々な魅力や課題があり、様々な人々が関わり合いながらその魅力の伸長や課題の解決に向けて尽力していることを理解している。<br>② 調査活動を目的に応じて適切に行っている。 | ① 資料などを活用・分析しながら地域課題を適切にとらえ、その解決に向けて見通しをもった計画を立案し、実行している。<br>② 課題解決の方法と自身の特性を関連させ、自他の望ましい在り方についてまとめたり表現したりしている。 | ① 自分や他者の意見や考えの良さに気づきながら、課題の解決に向けて協働的に取り組もうとしている。<br>② 地域課題解決に向けた取り組みを通して、自分の生き方について深く考えようとしている。 |

### (3) 指導の計画

#### ①年間計画

| 時数    | 月          | 時間 | 内 容                                  |
|-------|------------|----|--------------------------------------|
| 1     | 4月         | 1  | ■HSの全体オリエンテーション<br>■学年テーマの確認         |
| 2・3   |            | 2  | ■会いたい人調べ交流会・決定<br>各グループの発表と質疑        |
| 4・5   |            | 2  | ■自主研修の講師の先生の決定・アポ                    |
| 6～7   | 5月         | 2  | ■「ちいプロ」<br>プロジェクトデザイン（PD）の作成         |
| 8～10  |            | 3  | ■プレゼン作成                              |
| 11    |            | 1  | ■講演会①の事前学習                           |
| 12・13 |            | 2  | ■講演会①指出氏によるPDの添削                     |
| 14・15 |            | 2  | ■PD、プレゼン資料の改善                        |
| 16    |            | 1  | ■「ちいプロ」プレゼン発表会                       |
| 17・18 | 6月         | 2  | ■プレゼン発表会のまとめ                         |
| 19・20 |            | 2  | ■学習旅行・自主研修の事前学習                      |
| 21・22 |            | 2  | ■学習旅行・自主研修の計画立案                      |
| 23・24 |            | 2  | ■自主研修事前学習                            |
| 25・26 |            | 2  | ■ガイドブック確認                            |
| 27・28 |            | 2  | ■学習旅行事前指導                            |
| 29～35 |            | 7  | ■学習旅行、講演会②                           |
| 36～40 | 7月         | 5  | ■学習旅行の振り返り・まとめ                       |
| 41・42 |            | 2  | ■講演会③に向けた事前学習                        |
| 43・44 |            | 2  | ■講演会③                                |
| 45    |            | 1  | ■講演会③のまとめ はがき新聞                      |
| 46    | 9月         | 1  | ■これまでの探究的な学習のまとめ<br>■これからの探究的な学習の見通し |
| 47～49 |            | 3  | ■「ちいプロ」に向けた計画・準備                     |
| 50～55 | 10月        | 6  | ■「ちいプロ」実践                            |
| 56～59 |            | 4  | ■「ちいプロ」のまとめ<br>HS交流会に向けて             |
| 60    |            | 1  | ■HS交流会                               |
| 61    |            | 1  | ■HS交流会振り返り                           |
| 62～69 | 11月<br>12月 | 8  | ■HS論文集「海の水はからかった」<br>作成開始            |
| 70    | 1月         | 1  | ■3年間のまとめ                             |

#### ②単元計画

| 時        | ・学習内容                                                                   | 関連する評価の観点 |        |    | ・評価方法                              |
|----------|-------------------------------------------------------------------------|-----------|--------|----|------------------------------------|
|          |                                                                         | 知識        | 理解     | 態度 |                                    |
| 6・7      | ■「ちいプロ」プロジェクトデザインの作成<br>・自身やグループの「好き」と地域課題を繋げ、自他の Well-being を目指す企画の作成。 | ①         |        | ①  | ・活動の様子<br>・PDの内容                   |
| 8・9・10   | ■プレゼン作成<br>・プロジェクトデザインの内容を他者に伝えるプレゼンテーションを作成する。                         |           | ①<br>② |    | ・活動の様子<br>・プレゼン資料の内容               |
| 11       | ■講演会①の事前学習<br>・講師の経歴や、講演会の目的について学ぶ。<br>・質問を考える。                         | ②         |        |    | ・学習シート<br>の記述内容                    |
| 12・13    | ■講演会①オンライン<br>・講師からプロジェクトデザインの添削を受ける。                                   | ①         |        | ②  | ・活動の様子<br>・学習シート<br>の記述内容          |
| 14・15    | ■プロジェクトデザイン・プレゼン資料改善、練習<br>・講演会をもとに、資料に修正を加える。                          |           | ②      |    | ・活動の様子<br>・プレゼン資料の内容               |
| 16<br>本時 | ■「ちいプロ」プレゼン<br>・地域課題の現状や現時点で考える解決のための方策を学年生徒や参加者に伝え、改善案を考える。            |           | ②      | ①  | ・活動の様子<br>(VTR)<br>・学習シート<br>の記述内容 |

### 4 本時について

#### (1) 目標

「ちいプロ」について学年生徒や参加者に伝え、交流しながら、課題の捉え方や解決に向けた方策、構成員の特性との関連について見直させ、改善案を考える。

#### (2) 評価規準

自分や他者の意見や考えの良さに気づきながら、プロジェクト改善に向けて協働的に取り組もうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

#### (3) 本時の展開

##### 【進行、コーディネート】

ブースリーダー、サブリーダー



##### 【タイムスケジュール】

・11:10～11:13 開会、本時の流れの確認

・11:13～11:53 発表、質疑応答

<各グループの持ち時間 10分×4グループ>

・発表 6分程度

・質疑応答 3分程度

※質疑応答では参加者の皆様からも忌憚のないご意見やご質問を頂き、「ちいプロ」がより良い活動になるようにお力添えを頂きたいです。

・11:53～12:00 振り返り、閉会

| No | ラベル        | プロジェクト名                         | 会場         |
|----|------------|---------------------------------|------------|
| 1  | 商業・観光      | 何がある？誰が来る？サカナチョウ                | 1 D        |
| 2  | 環境・自然      | 環境問題の catch&release             |            |
| 3  | スポーツ・芸能    | Never Give Up～believe yourself～ |            |
| 4  | スポーツ・芸能    | ひろめちゃお☆最大限の音楽の魅力                |            |
| 5  | 伝統・文化      | 伝統・文化広め隊!!                      | 1 A<br>3 A |
| 6  | 道路・交通      | The power of train～Project T～   |            |
| 7  | 商業・観光      | 電車で GO 聖地だぞお～                   |            |
| 8  | スポーツ・芸能    | サッカーしようぜ！あくしろよ。                 |            |
| 9  | ユニバーサルデザイン | 誰でも楽しめる岩手を作ろう！                  | 集会室        |
| 10 | 商業・観光      | 見よう、知ろう、ジビエ。                    |            |
| 11 | 環境・自然      | 名ガイドマン～翡翠の志賀高原～                 |            |
| 12 | スポーツ・芸能    | すみます芸人で岩手を町おこし                  |            |
| 13 | 環境・自然      | みどりだいすき！～未来の子供に笑顔を～             | 2 B        |
| 14 | 道路・交通      | 電車、盛り上げろ。                       |            |
| 15 | 健康・医療      | 医療を平等に届けるためのプロジェクト（仮）           |            |
| 16 | スポーツ・芸能    | ハコヅメプロジェクト                      |            |
| 17 | スポーツ・芸能    | Let's sport!!                   | 第1<br>理科室  |
| 18 | 商業・観光      | 人生楽しんでもんがち～うちで作る Revolution～    |            |
| 19 | 地域資源・魅力    | いわて色に染めて                        |            |
| 20 | 環境・自然      | ポイ捨て厳しいって                       |            |
| 21 | 地域資源・魅力    | 全てを味わえ！盛岡食べつくし亭                 | 第2<br>理科室  |
| 22 | 商業・観光      | じゃじゃじゃ～夢の eat eating～           |            |
| 23 | 健康・医療      | Guardians of Iwate              |            |
| 24 | スポーツ・芸能    | KURI～協力して、うきうき、ルンルン、岩手～         |            |
| 25 | 商業・観光      | 地域育成計画                          | 発表無し       |

表2 プレゼンテーション内容・会場一覧